

寺社に接続する道空間を対象としたまちづくりに関する研究  
 一江戸名所図会から読み取る寺社境内地に接続する道の空間構成について一

A Study on Machizukuri for the Road Space Connecting to the Temple / Shrine

- About the spatial composition of the road connected to the temple / shrine site in Edo era -

○新橋一士<sup>1</sup>, 岡田智秀<sup>2</sup>, 田島洋輔<sup>2</sup>, 落合正行<sup>2</sup>

\*Kazushi Shimbashi<sup>1</sup>, Tomohide Okada<sup>2</sup>, Yousuke Tajima<sup>2</sup>, Masayuki Ochiai<sup>2</sup>

Abstract: The purpose of this paper is to clarify characteristics of the road space connecting to the temple / shrine site in Edo era. As a result, it clarified following ; (1) Lying-road type has prosperity and high rank, (2) Lying-road and Straight-road types have no prosperity and low rank and (3) Lying-road and Side-road types have no relationship with the temple / shrine site and low rank.

**1. 研究目的;** わが国の寺社空間では, そこへ至る参道や門前といったアプローチ空間が街並みを形成することで観光名所として賑わいを創出してきた. しかし, 寺社周辺部の賑わい形成方策は, 参道や門前にとどまらず, その周囲全体を一つの観光エリアとして捉え, 寺社空間を核としたまちづくりを展開することも地域活性化の一方策となろう. これについて, 寺社とまちとの関係を論考した既往研究には, 寺社を中心とするエリアを広域に捉えて街路ネットワークの中から寺社の位置づけを明確化した出村らの研究<sup>1)</sup> や, 神社境内地の外側にある参道を境外参道として着目して空間的特徴を明示した岡村らの研究<sup>2)</sup> 等がみられるが, 図1に示すような寺社境内地を中心としてそれに接道する周辺の道と寺社との関係について言及した研究はみられない. そこで本研究では, 江戸東京の寺社周辺空間を対象とし, 本稿では寺社とその周辺部の原型が形成された江戸期に着目することにより, その当時の寺社境内地に接道する道の原初的空間の構成とその特徴について明らかにする.

**2. 研究方法;** 本研究では江戸期にベストセラーとなった観光ガイドブックであり, 当時の様子が克明に描写されている点で分析資料として定評がある江戸名所図会<sup>3)</sup> <sup>4)</sup>に着目し, 本稿では全6巻のうち第1・2巻(図2:城南・神奈川地区)を対象に分析を行った. 分析には, 寺社境内地に接続する道が描写された全77件を対象とした.

**3. 結果および考察;** 表1は, 上述した77件において寺社に接続する道のタイプとその該当件数を示したものである. これより相対的に多いのは「横道型(31件)」、「横道・縦道型(10件)」、「横道・側道型(10件)」であった. これらを対象に「立地(朱引<sup>(1)</sup>内外)」および「道路の形態(自然系要素, 人工系要素, 賑わい性<sup>(2)</sup>)」を示したものが表2である. 以降は表2をもとに考察する.

**(1) 横道型;** これは, 31件と最も多い道タイプであり, 立地としては朱引内(14件)と朱引外(17件)とともに半数を占めている. 朱引内の特徴は, 14件中9件(6割)

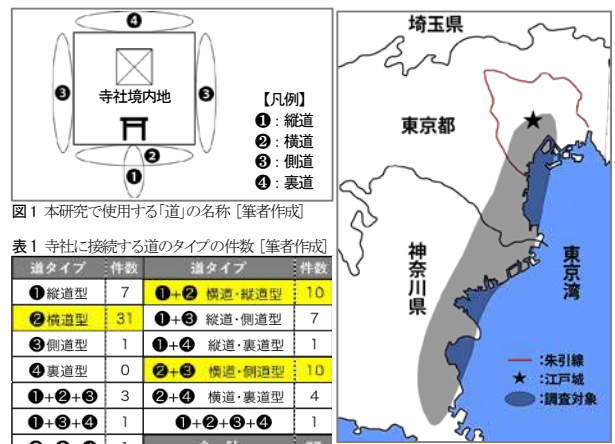


図1 本研究で使用する「道」の名称 [筆者作成]

表1 寺社に接続する道のタイプの件数 [筆者作成]

| 道タイプ  | 件数 | 道タイプ       | 件数 |
|-------|----|------------|----|
| ①縦道型  | 7  | ①+② 横道・縦道型 | 10 |
| ②横道型  | 31 | ①+③ 縦道・側道型 | 7  |
| ③側道型  | 1  | ①+④ 縦道・裏道型 | 1  |
| ④裏道型  | 0  | ②+③ 横道・側道型 | 10 |
| ①+②+③ | 3  | ②+④ 横道・裏道型 | 4  |
| ①+③+④ | 1  | ①+②+③+④    | 1  |
| ②+③+④ | 1  | 合計         | 77 |

図2 調査対象範囲 [筆者作成]

が沿道に自然物を持たない一方, 14件中11件(8割)が沿道に建築物を有しており, その大部分(10件)が瓦屋根という板葺や茅葺と比して質の高い建築形態がみられた. 他方, 朱引外もまた17件と表中の3つの道タイプのうち横道型が最多であり, 品川寺と天妙国寺を除く全寺社が水辺・樹林・農地のいずれかの自然系要素を有している. また, 沿道の建築物は朱引内とは異なり, 茅葺屋根という17件中13件(8割)が簡素な建築形態となっている. 建築用途は, 朱引内外のいずれも, 店構えを持つものや茶屋と特定できるものが多い. 道を往来する人物属性は, 参拝者と旅人が朱引内外で共通してみられるも, 朱引内では店の周りに多様な人が集い賑わう様子が描かれる(図3). 一方, 朱引外では魚売りや農具を持った人物など生活景が中心となっている(図4). さらに, 朱引内では沿道に水路を有するものが5件みられたが, そのうち4件は愛宕山権現社(図5)など相対的に広大な敷地を持つ寺社で共通し, その横道も広幅員で人々の往来も多く, 空間全体に賑わいと格の高さを有している.

**(2) 横道・縦道型;** このタイプは10件中9件が朱引外に存在し, その大部分の7件は横道と縦道の周囲に農地が一面に広がる. このうち, 現代の主要な参道型と推察される縦道に着目すると9件中6件と半数以上に建築物がなく自然系要素で構成され, 9件中8件は農地が広がり

1 : 日大理工・学部・まち 2 : 日大理工・教員・まち

表2 3つの道タイプ毎の神社・寺院と寺社境内に接続する道路形態との関係 [筆者作成]

[凡例] ●：縦道、▲：横道、◆：側道、-：該当なし。

Table with columns: 寺社名, 取所在地, 立地, 自然系要素 (水辺, 樹林, 農地), 人工系要素 (常設, 仮設, 屋根, 用途), 沿道建築 (瓦, 茅草), その他沿道要素 (水路, 石積み護岸, 橋), 人数 (人), 賑わい性 (賑わい性), 賑わい性 (賑わい性), 人物属性 (人物属性).

利用者もみられない。このうち飯倉神明宮、弘明寺および称名寺を除くすべての縦道が横道よりも幅員が狭く蛇行する畦道となっている(図6)。このことから朱引外の寺社の縦道は、寺社へのアプローチ機能を持つもの、現代にみられる参道のような縦道とは大きくかけ離れた様相を呈していることを捉えた。

(3) 横道・側道型; これは10件のうち朱引内が4件、朱引外が6件みられた。沿道の建築物は朱引内のすべてで瓦屋根を有し、朱引外では半数以上で茅草屋根を有しており、「横道型」と同様の建築形態の特徴がみられた。また、側道に着目すると寺社への主要なアプローチ道が存在するものが神戸村神明宮(図7)の1件ならずである。沿道の建築物をみても朱引内では建築物の立地がみられる一方、朱引外ではそれがみられない(図8)。両者いずれも往来する人物もほとんどみられず、側道は寺社との関係がきわめて希薄な様子が捉えられた。



図3 伊雑大神宮<sup>3)</sup>

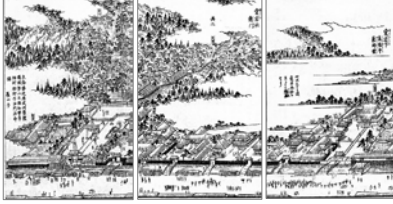


図5 愛宕山権現社<sup>3)</sup>



図4 菴木明神社<sup>3)</sup>

図6 弘福寺<sup>3)</sup>

図7 神戸村神明宮<sup>3)</sup>

図8 海竜寺<sup>3)</sup>

補注：(1) 朱引：江戸藩村が江戸の範囲を示すために定めた境界線であり、現在の山手線周辺および隅田川東岸(墨田区・江東区)を合わせた範囲を示す。(2) 賑わい性：人の賑わいを評価するために、図面に描写された沿道の利用者数をカウントし、「低」：0-20人、「中」：21-40人、「高」：41人以上に分類した。参考文献：1) 出村嘉史・川崎雅史：「近世の祇園社の景観とその周囲との連接に関する研究」, pp.393-398, 土木計画学研究論文集 Vol.21, 2004 / 2) 岡村祐・北沢猛・西村幸夫：「境外参道の空間特性に関する研究 東京都心部をケーススタディとして」, pp.823-828, 日本都市計画学会都市計画論文集 No.40, 2005 / 3) 市古夏生・鈴木健一：「新訂 江戸名所図会 1」, 筑摩書房 1996 / 4) 市古夏生・鈴木健一：「新訂 江戸名所図会 2」, 筑摩書房 1996